

外観



近畿大学最大の東大阪本部キャンパス内に建てられた39号館。

オープンスペース



エレベーターホールの前は、広々としたオープンスペースとなっている。椅子やテーブルを配置したアメニティスペースとして、学生の交友の場に活用されている。

1F 女性トイレ パウダーコーナー



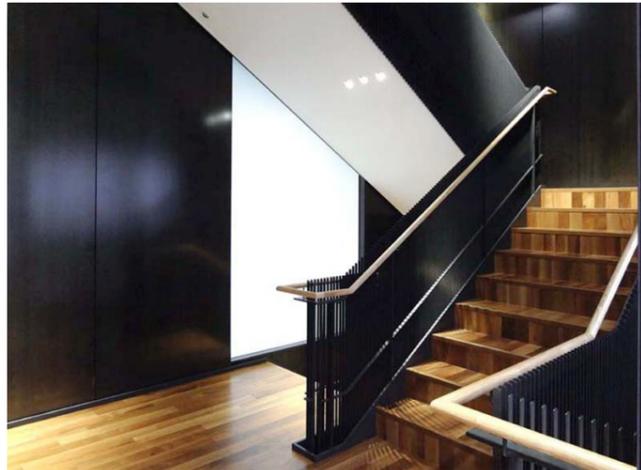
同時に4人程度が使用できるパウダーコーナーを窓側に設置。

1F 多機能トイレ



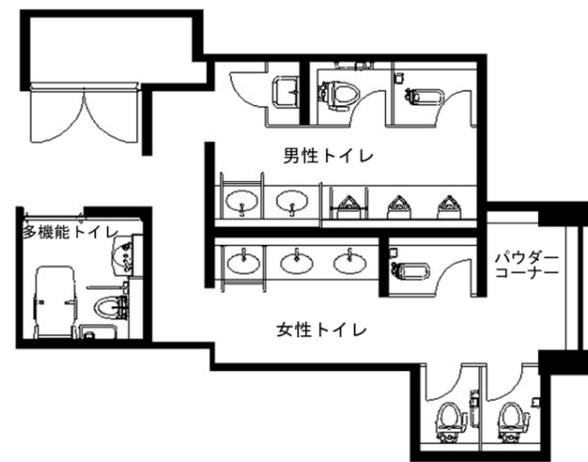
教員室や会議室などがある1Fは、パウチ・しびん洗浄水栓や背もたれを備えた多機能トイレを設けた。

階段

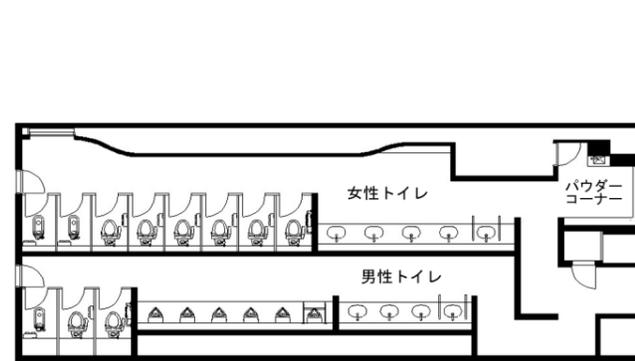


フローリングの木目と黒い壁のコーディネートが印象的な空間。

1F トイレ図面



2F トイレ図面



2F トイレ入口



右側がトイレの入口。2・3Fには200人以上収容可能な講義室が2ヶ所ある。

1F 男性トイレ 全体



トイレ空間は、すべて白を基調とした明るく清潔感のあるインテリア。

1F 女性トイレ 全体



荷物や化粧ポーチなどが置ける棚を設けた洗面コーナー。奥はパウダーコーナー。

2F 男性トイレ 全体



自動水栓を採用した洗面コーナー。衛生面に配慮した非接触タイプで、節水効果もある。

2F 男性トイレ 小便器コーナー



床の清掃性に配慮し、壁掛式の低リップタイプ小便器を採用。

2F 女性トイレ 全体



洗面コーナー後方のゆるやかな曲線の壁が印象的な空間。右手前の先はパウダーコーナーへ続く。

2F 女性トイレ パウダーコーナー



ゆるやかな曲線の壁に沿って、棚と全身鏡を配したパウダーコーナー。奥にもパウダーコーナーを設けている。

4F 女性トイレ 全体



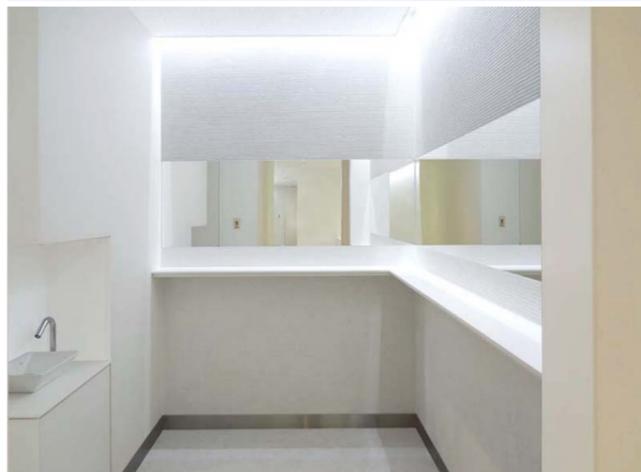
両面が鏡張りになっている細長い柱で、洗面コーナーとパウダーコーナーをゆるやかに仕切り、空間全体を見渡すことができる。

4F 女性トイレ パウダーコーナー



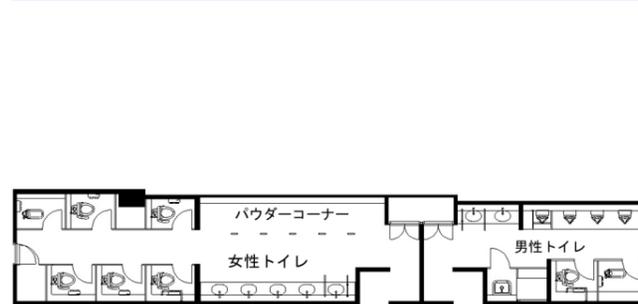
大便器ブースが空くの待つ間に、細長い柱の鏡で身繕いすることができる。柱は人が通ることのできる間隔をあけて設置している。

2F 女性トイレ パウダーコーナー



横長の大型鏡と手洗器を設置したパウダーコーナー。

4F トイレ図面



大便器ブース（各階共通）



すべての洋式便器にウォシュレットを設置し、手荷物の多い学生に配慮してライニングスペースを広めに確保している。また、女性トイレの大便器ブースには、非常呼出ボタンを完備。

大便器ブース（各階共通）



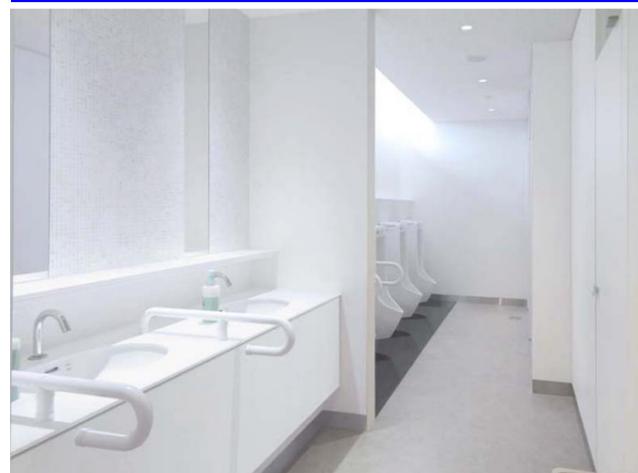
防犯対策として間仕切り壁上部の隙間をなくし、個室感を高めている。また環境配慮として、人感センサー式のLED照明を採用している。

4F トイレ入口



白い壁に映えるシンプルなデザインのトイレサイン。

4F 男性トイレ 全体



小便器上部から自然光が差し込む明るいトイレ空間。

### 建築概要

名称	近畿大学 薬学部新棟39号館
所在地	大阪府東大阪市小若江3-4-1
施主	学校法人近畿大学
設計	株式会社NTTファシリティーズ
施工	東急建設株式会社
竣工年月	2011年9月

### 水まわりの特長

#### <建物の特徴>

近畿大学は13学部と大学院に加え、20ヶ所の研究所も擁する西日本一の総合大学。薬学部は1954年に開設され、半世紀の歴史を刻んでいる。今回、建設された11階建ての39号館には、最新設備の講義室、実習室、演習室、研究室のほか、学生の交歓の場となるアメニティスペースなどを設置。また緊急時でも研究が中断されないように、非常用電源の設置や高効率LED照明の採用など、安全面への配慮もされている。

#### <トイレの特長>

薬学部は女性の比率が高いため、女子学生が安心して快適に使用できるトイレ空間を目指した。インテリアは白を基調とした、明るく清潔感のあるデザインとなっており、パウダーコーナーの充実や、大便器ブースに広めの荷物置きスペースを確保するなど、きめ細かな女性配慮も行っている。安全面においては、防犯対策として間仕切り壁上部の隙間をなくし、個室感を高めたほか、非常呼出ボタンも完備。また、自動洗浄小便器、自動水栓の採用、大便器ブースには人感センサー式のLED照明を導入するなど節水・節電対策を行い、環境にも配慮している。